

東日本大震災被災地の 小型漁船建造の取り組み ― 巨理地域プロジェクト（改革型） ―

小型底びき網漁業と火光利用敷網漁業（*）の兼業化に向けて、また、漁獲物の活魚出荷率を高めるために、地域プロジェクト「巨理地域プロジェクト（改革型）」が2011年2月

18日にスタートしました。このプロジェクトは、水産庁の漁船漁業構造改革総合対策事業の一環として、宮城県漁業協同組合が運営しています。東日本大震災が起こったのは、こ



写真1. 壊滅的な被害を受けた南三陸町造船所



大破した巨理町の漁業協同組合の建屋

の事業で9・7トン型の小型底びき網漁船の建造計画が着々と進んでいた矢先のことでした。建造を予定していた宮城県南三陸町の造船所も津波で大被害を受け（写真1）、船体を建造・修理する設備や設計図も流され、建造の見通しが立たなくなっていました。

そこで、水産庁海洋技術室の指導のもと、エンジンが船体内に設置された内燃機船を対象に、被災地小型漁船新造のための支援調査プロジェクトが動き出しました。

水産総合研究センター水産工学研究所は、まず、被災した漁業者の漁船復旧のニーズに加え、各造船所の被災状況を把握することに努めました。

次に、被災していない地域の造船所を訪ね、建造の協力を求めました。小型漁船は、地域の風土、すなわち気候、海象などに合わせて造られる



写真2. 巨理地域プロジェクトの造船の打ち合わせ
船主、被災地造船所、建造協力造船所による建造中漁船内での機器配置決定の様子

ため、被災地の漁業者が必要とする漁船を造ることが出来る造船所は限られてきます。水産工学研究所は、技術力、建造後の運搬方法などを確認しながら情報収集し、建造協力の依頼作業を進めました。幸い、日本海側の北陸小型船舶工業会などの協力を得て、十数隻の小型漁船の建造にとりかかることができました。

また、巨理地域プロジェクトの小型底びき網漁船は、千葉県いすみ市にある造船所の全面的協力により、7月17日に進水しました（写真3）。その後、宮城県に回航され、機能が



写真3. 巨理地域プロジェクトの小型底びき網漁船が千葉県いすみ市で進水

回復した被災地の造船所で最終的にすべての装置や設備の整備を行い、9月に竣工する予定です。今回の取り組みを通じて、東日本大震災からの復興には国民全員で支援することが何よりも大切だということ、あらためて感じさせてくれました。

地域プロジェクト「巨理地域プロジェクト（改革型）」は、「巨理地域漁業復興プロジェクト漁業復興計画（小型底びき網漁業復興計画）」へ移行し、12年3月15日に漁業復興計画として漁業改革推進集中プロジェクト中央協議会に認定されました。

Column

さけます事業所に岩手県から研修生が来ました 震災からの復興をめざして

サケ稚魚の飼育と放流が佳境を迎えた5月上旬、北海道の東部にある伊茶仁（いちに）さけます事業所と虹別（にじべつ）さけます事業所では、岩手県の三陸やまだ漁業協同組合からサケふ化放流事業の新担当者に、稚魚飼育などの技術研修を行いました。

研修メニューは、飼育施設の特徴に合わせた良好な池環境での飼育方法や寄生虫の検査と駆除、稚魚の健康度評価など。基礎的な理論から実践的な技術まで、かなり盛りだくさんでしたが、



ふたりとも理解が早く、動きもスムーズ。ひとつひとつのメニューに熱心に取り組む姿は、今後の成長を大いに期待させてくれました。生活環境もいまだ整わず苦労も多いと思いますが、彼らが岩手県のサケ資源増大に向けて活躍されるよう願っています。



放流事業の新担当者
福士 晃弘（左）さんと
湊 和道（右）さん

北海道水産研究所では、震災復興支援の一環として、被災県を対象にした栽培漁業技術研修を実施しています。

詳しくはイベント情報「被災県を対象にした栽培漁業技術研修の実施について」をご覧ください。

URL ▶ <http://hnf.fra.affrc.go.jp/event/kensyuu.html>



* 火光利用敷網漁業：夜間に集魚灯でイカナゴ稚魚などを集め、すくい取る漁法